

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「GSグローバル・ビッグデータ投資戦略 隔月決算コース(為替ヘッジなし)」は、日本を含む先進国の株式を主な投資対象とし、ビッグデータやAI(人工知能)を活用した独自開発の計量モデルを用いて多様な銘柄評価基準に基づいて幅広い銘柄に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行ってまいりましたが、2022年7月27日に償還いたしました。ここに謹んで運用経過と償還内容をご報告申し上げますとともに、受益者の皆様のご愛顧に對しまして、厚く御礼申し上げます。

償還日(2022年7月27日)		第17期～第19期	
償還価額	12,076.01円	騰落率	4.25%
純資産総額	82百万円	分配金合計	220円

(注)騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

本ファンドは、約款において運用報告書(全体版)を電子交付することが定められております。償還運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

〈閲覧方法〉

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「新規設定ファンドのお知らせ/償還ファンド一覧」⇒「償還ファンド」タブを選択⇒本ファンドの「運用報告書(全体版)」を選択

GS GLOBAL BIG DATA STRATEGY

交付償還運用報告書

GSグローバル・ビッグデータ投資戦略 隔月決算コース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/株式

第17期(決算日2022年5月10日)

第18期(決算日2022年7月11日)

第19期(信託終了日2022年7月27日)

作成対象期間:2022年3月11日～2022年7月27日

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

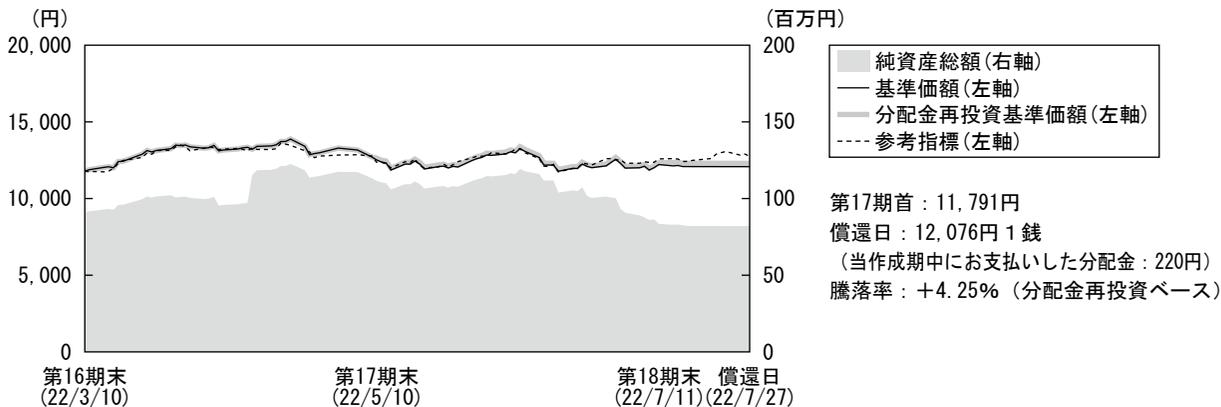
〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

お問合せ先: 03-6437-6000(代表)

受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

運用経過

■ 基準価額等の推移について（2022年3月11日～2022年7月27日）



- (注1) 参考指標は、MSC Iワールド・インデックス（円ベース）であり、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注4) 分配金再投資基準価額、参考指標は、当作成期（以下、「当期」といいます。）の期首の基準価額を起点として指数化しています。

■ 基準価額の主な変動要因

○本ファンドの基準価額は、期首の11,791円から285円 1銭上昇し、償還日には12,076円 1銭となりました。

上昇要因

日本や香港における銘柄選択効果がプラス寄与となったことなどが、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

銘柄選択における投資テーマ「バリュー」と「モメンタム」がマイナス寄与となったことや、ドイツやオランダにおける銘柄選択効果がマイナス寄与となったことなどが、基準価額の下落要因となりました。また、分配金をお支払いしたことなども、基準価額の下落要因となりました。

■ 組入れファンドの当期中の騰落率（分配金再投資、円換算ベース）

ファンド名	騰落率
ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ* ¹	5.16%
ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド* ²	18.64%

（注）純資産価格の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
当期中に保有していた期間中の騰落率を記載しています。

正式名称はそれぞれ以下の通りです。

- * 1 ルクセンブルク籍外国投資証券（米ドル建て）ゴールドマン・サックス・ファンズ S. I. C. A. V. - ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ IOシェアクラス (Cap MDist)
- * 2 アイルランド籍外国投資証券（米ドル建て）ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー-ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド X アキュムレーション・クラス

■ 1万口当たりの費用明細

項目	第17期～第19期		項目の概要
	2022年3月11日～2022年7月27日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	66円 (32)	0.513% (0.251)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(32)	(0.251)	
(受託会社)	(1)	(0.010)	
その他費用 (保管費用)	14 (9)	0.111 (0.068)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 目論見書・運用報告書等の作成・印刷に係る費用、信託事務処理等に要するその他の諸費用
(その他)	(5)	(0.043)	
合計	80	0.624	

期中の平均基準価額は12,843円です。

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む。）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。但し、各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

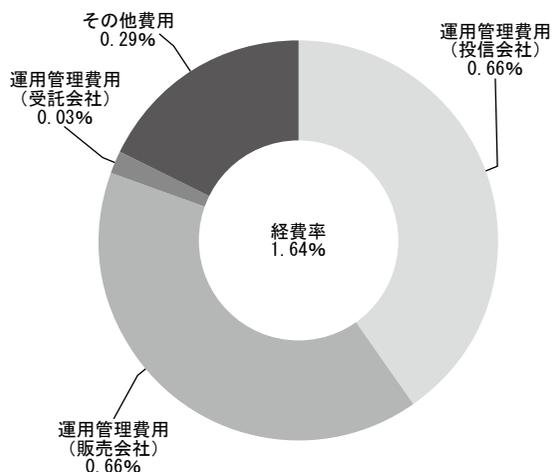
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■ 経费率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く）

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料、有価証券取引税及び投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経费率（年率）は1.64%です。



経费率 (①+②)	1.64%
①このファンドの費用の比率	1.64%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	—%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが実質的に組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

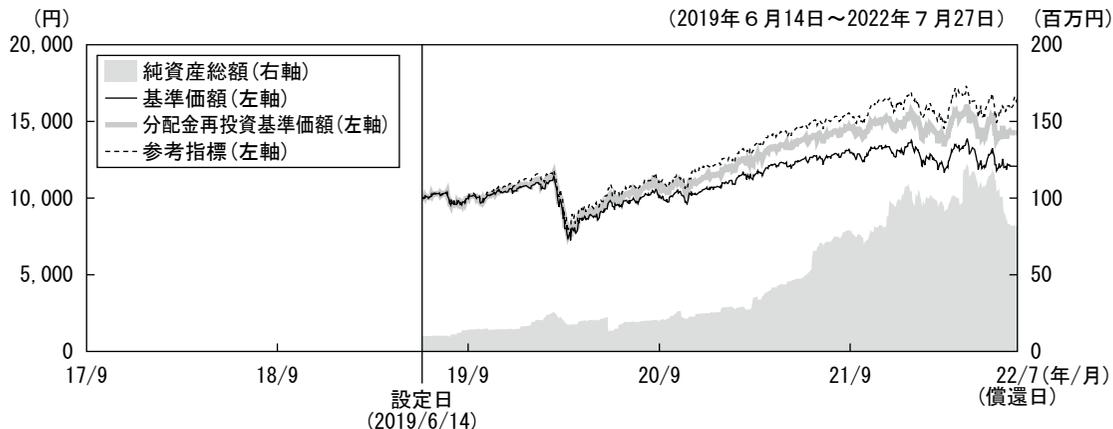
(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■ 最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注3) 分配金再投資基準価額、参考指標は、設定日（2019年6月14日）の基準価額を起点として指数化しています。

■ 最近5年間の年間騰落率

	2019/6/14 設定日	2019/9/10 決算日	2020/9/10 決算日	2021/9/10 決算日	2022/7/27 償還日
基準価額（分配落）（円）	10,000	10,012	10,021	12,942	12,076.01
期間分配金合計（税引前）（円）	—	0	600	670	600
分配金再投資基準価額騰落率	—	0.12%	6.47%	36.66%	-2.14%
参考指標騰落率	—	1.06%	10.79%	37.40%	5.44%
純資産総額（百万円）	10	14	19	78	82

(注) 設定日の基準価額は当初設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

■ 投資環境について

<世界株式市場>

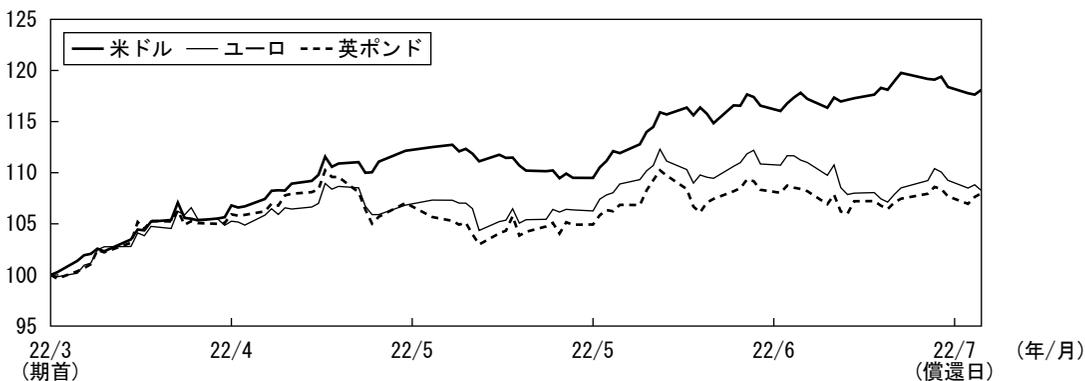
当期の世界株式市場は下落しました。

期初は、ロシアのウクライナ侵攻において両国が停戦協議を開始するとの動きが伝わり、それまで大きく下落していた銘柄群を中心に買い戻す動きがみられ、世界株式市場は上昇しました。その後、米金融当局がインフレ圧力を低下させる取り組みが最優先とし、利上げを進める一方でバランスシートの縮小を開始する意向を表明したことから、世界株式市場はグロース銘柄を中心に下落し、高止まりするインフレやリセッション（景気後退）への警戒感から株価は軟調に推移しました。期末は、5月の米消費者物価指数が大幅な上昇率を記録したことにより、米金融当局がさらに金融引き締めを行うとの見方が広がり、世界株式市場は下落しました。

<外国為替市場>

外国為替市場では、円に対して米ドル、ユーロ、英ポンドが上昇しました。

○為替レート（対円）の推移



出所：一般社団法人投資信託協会

(注) 各通貨は期首を100として指数化しています。

<短期金融市場>

当期において、米国T-Bill 1 ヶ月は前期末の0.13%程度から1.80%程度まで上昇して償還日を迎えました。

■ ポートフォリオについて

<本ファンド>

本ファンドは、ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオおよびゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンドを主要投資対象とし、期を通じてゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオを概ね高位に組入れることで、日本を含む先進国の株式に投資することにより、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行いました。なお、当期中、満期償還に向けて現金化を行いました。

<ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ>

日本を含む先進国の株式を主な投資対象とし、ビッグデータやAI（人工知能）を活用したゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント独自開発の計量モデルを用い、多様な銘柄評価基準に基づいて幅広い銘柄に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長をめざしました。

当運用では、最新のビッグデータや伝統的な市場・業績データ等をもとに、モメンタム（Momentum）・バリュー（Value）・収益性（Profitability）の投資テーマを通じた評価基準（MVPモデル）に基づき、投資魅力度を総合的に評価していますが、当期においては、国別配分効果と銘柄選択効果がともにマイナス寄与となりました。国別配分効果はドイツや英国など欧州の国・地域を中心にマイナス寄与となり、銘柄選択効果は、コミュニケーションサービスや情報技術のセクターでプラス寄与となった一方、素材やヘルスケアのセクターでマイナス寄与となりました。また、当運用では、最新のビッグデータや伝統的な市場・業績データなどをもとに、モメンタム（Momentum）・バリュー（Value）・収益性（Profitability）の投資テーマを通じた評価基準（MVPモデル）に基づき、投資魅力度を総合的に評価していますが、当期は、「モメンタム」と「バリュー」がマイナス寄与になった一方、「収益性」はほぼ中立となりました。

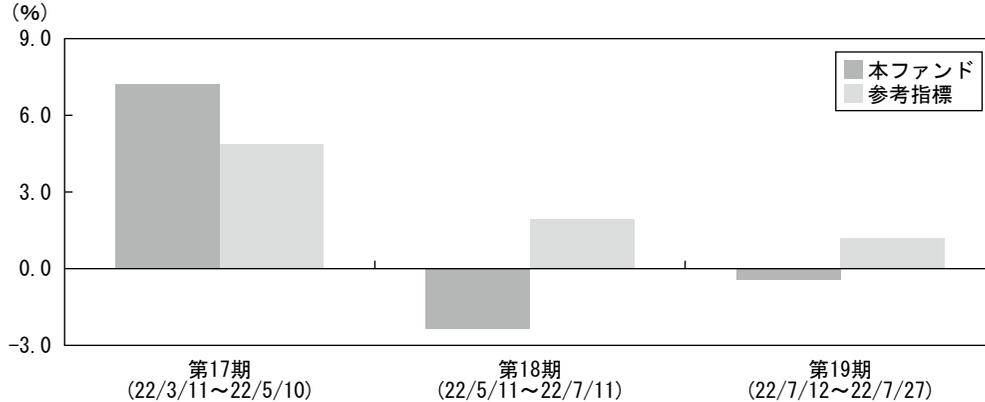
<ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド>

主として米ドル建ての短期金融市場証券に分散投資することにより、元本と流動性を確保しつつ、米ドルベースでの最大限の収益を得ることを目標として運用を行いました。

■ ベンチマークとの差異について

本ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、本ファンドの基準価額と参考指標の騰落率の対比です。

<当期の基準価額と参考指標の対比（騰落率）>



(注) 基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、+4.25%となった一方、参考指標のパフォーマンスは+8.19%となりました。

■ 分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、第17期は120円、第18期は100円としました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行いました。

<分配原資の内訳>

（単位：円・%、1万口当たり・税引前）

項 目	第 17 期	第 18 期	第 19 期
	2022年3月11日 ～2022年5月10日	2022年5月11日 ～2022年7月11日	2022年7月12日 ～2022年7月27日
当期分配金	120	100	—
（対基準価額比率）	0.949	0.818	—
当期の収益	120	100	—
当期の収益以外	—	—	—
翌期繰越分配対象額	3,732	3,782	—

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

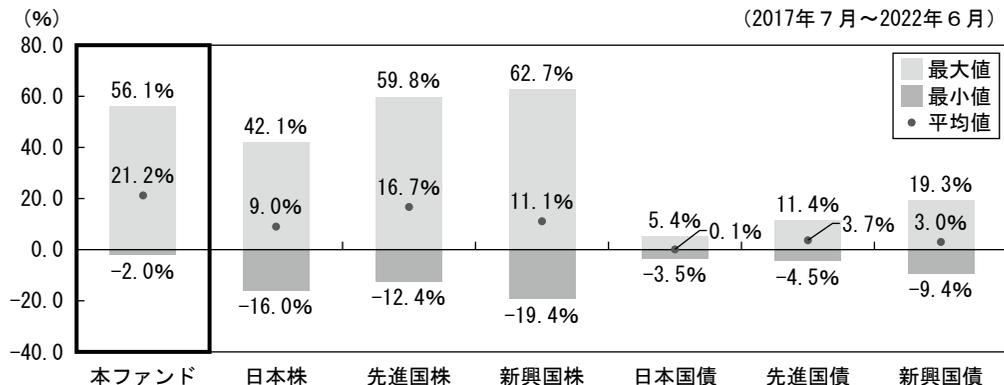
（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

本ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2022年7月27日（繰上償還日）まで
運用方針	主として日本を含む先進国の株式を主要投資対象とし、計量分析を用いて投資対象のリターン予測を行うと同時にポートフォリオのリスク・リターン特性の最適化プロセスを経ることによりリスク管理を行う投資信託証券への投資を通じ、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	
本ファンド	以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルクセンブルク籍外国投資証券 ゴールドマン・サックス・ファンズ S. I. C. A. V. ①ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ ・アイルランド籍外国投資証券 ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー ②ゴールドマン・サックスUS\$リキッド・リザーブズ・ファンド
指定投資信託証券①	日本を含む先進国の株式および株式関連証券
指定投資信託証券②	米ドル建ての短期の市場性を有する金融市場証券
運用方法・組入制限	①外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。 ②投資信託証券への投資は、高位に維持することを基本とします。 ③株式への直接投資は行いません。
分配方針	原則として毎計算期末（毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各10日。休業日の場合は翌営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利息・配当等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

（参考情報）

■ 本ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2017年7月から2022年6月の5年間における1年騰落率の平均値・最大値・最小値を、本ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。ただし、1年騰落率は各月末の直近1年間の騰落率であるため、設定日（2019年6月14日）から1年後の2020年6月以降のデータを表示しており、過去5年間のデータではありません。

○各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

- ・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。
- ・全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。
- ・本ファンドの騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- ・騰落率は当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

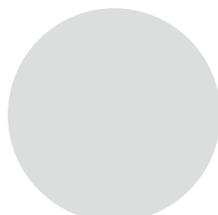
本ファンドのデータ

■ 本ファンドの組入資産の内容（2022年7月27日現在）

○ 組入れファンド

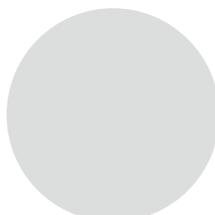
有価証券等の組入れはございません。

○ 資産別配分



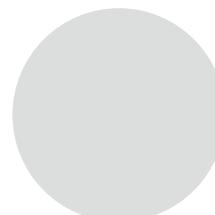
その他現金等
100.0%

○ 国別配分



日本
100.0%

○ 通貨別配分



日本円
100.0%

（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■ 純資産等

項目	第17期末	第18期末	償還日
	2022年5月10日	2022年7月11日	2022年7月27日
純資産総額	111,543,068円	82,868,151円	82,070,101円
受益権総口数	89,090,153口	68,336,139口	67,961,278口
1万口当たり基準価額	12,520円	12,127円	12,076円01銭

（注）当作成期首元本額は76,993,784円、当作成期間（第17期～第19期）中において、追加設定元本額は21,185,039円、同解約元本額は30,217,545円です。

■ 組入上位ファンドの概要

組入れはございません。